

PROLOGUE

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233



木二中 学校だより No.27 令和6年11月20日
校長 山元 竜二

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>

「中学時代の厳しい指導があつての今なんです…」

千葉県高校野球連盟は、毎年11月頃に近隣中学生を対象とした野球教室を地区ごとに開催しており、令和6年度も第8ブロック(主に木更津・君津・袖ヶ浦・富津・市原)の野球教室が先日3日(日)にゼットエーボールパークで開催されたと聞いています。各市すべての中学校が対象となるので、各校代表生徒4名のみの参加となります。それでも数百人の中学生が一同に集まるので、かなり規模の大きな野球教室となります。

確か私が志学館高等部に勤務し、野球部長をしていた頃に始まった野球教室だと記憶しています。ですから、私は指導する側の高校野球の指導者として、また、指導される側の中学野球の指導者として、両方の立場で参加した経験があるということになります。

私が木更津市内のある中学校の野球部顧問として、この野球教室に参加させていただいた時のこと。ピッチャー、キャッチャーのバッテリー2人、内外野手それぞれ1人ずつの計4人を連れて市原臨海球場(当時)で高校野球の指導者、選手たち(主に東海大望洋・木更津総合・拓大紅陵・志学館他、各公立高校：当時)に指導を受けました。バッテリー担当の指導者は、私の恩師である故小枝守監督(拓大紅陵野球部監督：当時)。バッテリーだけでも100人を超える人数だったので、1組4～5球投げては次の組、そしてまた次の組という具合で見ていただきました。

野球教室の全日程が終了してから、私は恩師に呼ばれ、次のような会話をしたことを覚えています。

小枝監督：「おい、竜二、ちょっと来い。」

私：「はい、中学生に何か失礼がありましたか？」

小枝監督：「いや、そうじゃない。俺は今日、何十人というバッテリーの投球練習を見たけど、キャッチャーの子が次の組の選手のためにホームベースの砂を手で払うだけじゃなく、足場まで素手できれいにならしてブルペンを後にしたのは、お前のところ(中学校)だけだったぞ。」

私：「え！？ そうなんですか？」

小枝監督：「とぼけるな、馬鹿野郎。アハハハ。」(嬉しそうに)

私：「アハ…、アハハハ。」

それはもう本当に厳しかった恩師の最高の褒め言葉だったと今、しっかりと心に刻まれています。

私が顧問をしていた野球部のキャプテンでもあった当時のキャッチャー、Tくん、現在は27歳になる好青年です。実は先日11月4日に結婚式を挙げ、また新たな人生を歩み始めたばかりでもあります。

新郎、新婦ともに堅苦しい式にはしたくなかったとのこと。会社の上司もいなければ、堅苦しいスピーチもない。強いて「恩師」と挙げられるのは私のみ。本当に仲間しかいない、実にTくんらしい結婚式でした。

私のテーブルに事前に準備されていたウェルカムカードには次のようなメッセージが記してありました。『今日はお忙しい中、結婚式に来ていただきありがとうございます。当時先生には「歴代キャプテンの中で一番叱ったのはお前以外にいない。」というありがたい言葉をいただいたことを今でも覚えています。でもそれ以上に先生には、男として、人として大切なことをたくさん教わったと思っています。先生にいただいた「誰でもできることを誰よりも大切に実践できる人になりなさい。」という言葉は、社会人になった今でも大切にしています。そう実践することで仲間から信頼され、上司や先輩からもかわいがられるようになりました。』

そして、式に出席していた野球部の卒業生たちも口々に

『あの、中学時代の厳しい指導があつての今なんです。そりゃあもう30歳が見えてきた年代ですから、それぞれが勤め先でそれなりのポジションにつくようになってきましたけど、嫌なこと、苦しいこと、辛いこと、何があつてもへっちゃらなんです。上司にどんなに叱られようと、中学時代に比べたらねえ、みんな！』

仲間思いのキャプテンの結婚式には、国内は広島から、また、国外はロサンゼルス(仕事でLA在住)からこの日のために集合。次の週には別の卒業生がLAに出張するとか。

中学時代に培った仲間の絆をいくつ歳を重ねても大切にしていること、当時の顧問だった私にとってこれほど嬉しいことはありません。中学時代の友が、かけがえのないの生涯の友になる。木二中のみんなにもそんな中学時代を過ごしてほしい…と強く思います。